2022年11月13日（日）主日朝礼拝説教

『**神が見えてくる**』　井上隆晶牧師
ヨブ記42章1～6節、マルコ福音書6章45～52節

❶【神様が止めておられる】

五つのパンと二匹の魚を増やし、五千人以上の人を満腹させた奇跡が行われた後、その興奮が冷めやらぬうちに、イエス様は弟子たちを強制的に舟に乗りこませ、湖の向こう岸に行かせました。「**強いて**」（45節）と書かれています。そしてイエス様は群衆を解散させ、祈るために山に登られます。弟子たちの舟は湖の真ん中まで出て行きますが、一晩中、逆風のために漕ぎ悩んでいました。4章でも弟子たちの乗った舟は嵐に遭いましたが、今回は最悪の状況です。イエス様が一緒に乗っていないからです。「**逆風**」と書かれていますが、ヘブライ語では「風」は「霊」と同じ言葉です。英語では「because the wind was against them」です。神の聖霊が弟子たちが前に進むのを押さえていたのです。これは聖書の他の個所でも出てきます。「**ビティニア州に入ろうとしたが、イエスの霊がそれを許さなかった。**」（使徒 16：7）この物語は、思うように伝道が前に進まない教会のために書かれています。教会は自分たちは神に見捨てられたのではないかと感じる「夜」を体験します。しかしそれはキリストが「**強いて**」教会にそういう体験をさせているのであり、聖霊がそう働いているからなのです。

●コロナの第八波が来るといって、若者の外出禁止要請を出すとかTVで言っています。外国はもうどこも問題にしていないのに日本の国はまだそんなことを言っているのです。日本人は何か問題が起こった時に、責任を負いたくないので、リスクを犯すことをものすごく恐がります。決断ができない政治家は本当に嫌になります。また先日、整骨院にマッサージに行ったら、そこの院長先生が「南海トラフ地震が10年以内に起こるかもしれないと専門家が言っていた。だから僕は地震が終わったら家を買う」というのです。新築の家を建てて、すぐに地震が来たらローンが払えなくなるからです。私が「地震で死んだらどうするの？家も建てられませんよ」というと「ああそうか」と言いました。

まことにこの世というのは安定しません。建てても崩され、前に進もうとすると邪魔が入ります。私たちは疲れ果て、やる気や希望を失ってしまいます。しかしそれらは、神が順調に行かないようになさっているのです。

❷【キリストが来てくださったのに見えていない】

さて、イエス様は夜が明けるころ、湖の上を歩いて弟子たちの所へ行き、そばを通り過ぎようとされます。なぜ通り過ぎようとされたのでしょう。復活した日、エマオ途上の旅人に対しても、イエス様は先に行こうとされました。（ルカ 24：28）彼らが本当に自分を必要とするのかを試されているのです。理論的には人間

が水の上を歩けるはずがありません。もしかしたら舟は既に浅瀬に漂っていたのかもしれません。そこへイエス様が歩いてきたのを、水の上を幽霊が歩いているのだと思ったのでしょう。「**夜が明けるころ**」です。イエス様は見えていたはずです。でも弟子たちは恐怖でいっぱいだったので自分の周りが見えなかったのです。今回のウクライナ戦争でロシア兵の60%が同士討ちをしていたというデータがあります。恐怖で味方か敵かが見えなくなっていたからです。しかし、そんな奇跡のからくりを聖書は伝えようとしているのではありません。水（深淵）は死の世界の象徴です。底が見えないからです。その死をキリストは支配される神であるということを伝えたいのです。弟子たちはイエス様の事を幽霊だと思い、大声で叫びました。イエス様の実体が感じられず、幽霊のようにボーとしか見えないのです。復活の日も同じでした。「**彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。**」（ルカ 24：37）夜は必ず開けます。そしてイエス様の方から、私たちの所に来て下さいます。イエス様は命です、光です。神の国です。それが向こうから来て下さるのです。どうして恐れることがありましょうか。大事なのは、イエス様が来てくださっているのに見えないという事です。そちらの方が怖いのです。

❸【イエス様がはっきりと見えてくるためには】

しかし、イエス様はすぐ彼らと話し始めて「**安心しなさい。わたしだ。恐れることはない**」（50 節）と言われます。人間はいつも恐れます。しかし、神は人間に恐れるな！と語られます。それを聞き続けなければなりません。**ここに平安を得るための秘訣が書かれています。キリストと対話をし、彼の言葉を聞くということです。**

●11 月の大阪ＹＷＣＡの聖書に学ぶ会で話をしました。「**人は神に対して大きな誤解をしています。神は私を愛して下さるだろうか、私を赦してくれるだろうか、と不安になります。しかし祈っていると恐れと疑いの雲がさーっと消えてゆくのです。自分が立派になったからではありません。罪を犯さない人になれたからでもありません。神の愛が見えてくるからです。大事なことは見えてくるということです。**」人は自分が良い子になったら愛される、罪を犯さなかったら愛されると思い込んで、いつも自分に目を向けます。全く逆なのです、自分に目を向けるのは律法です。神に目を向けるのが福音です。自分に目を向けても平安は来ません。神に目を向けて神が見えてくれば平安になるのです。

なかなかお祈りが出来ないという人がいました。お祈りは時間と場所を決めないとできません。お祈りを誤解している人もいました。お祈りの目的は私たちの願いを聞いてもらうことではありません。「**あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存知なのだ。**」（マタイ 6：7～8）とイエス様は言われたからです。祈りの目的は、私たちの事を知ってもらうことではなく、神を知ることにあります。つまり祈りとは「語ること」ではなく、「聞くこと」なのです。多くの人はどう語ればよいかと悩んでいます。朝の祈祷会に出た人は分かると思いま

すが、祈祷文や詩編や聖書を 30 分以上朗読し、それに耳を傾けて集中して聞くのです。祈祷文は、神がどなたか、何をなさったかが書かれています。それが耳から入って来ると、神のイメージがはっきり見えてくるのです。だから平安になるのです。ですから聞く耳のない人は、言葉が入ってきませんから、平安は来ません。「**聞く耳のある者は聞け**」（マルコ 4：9）です。皆、苦しい思いをいっぱい吐き出して聞いてもらえば平安になれると誤解しています。でもなれません。西洋式カウンセリングは寄り添うことは良いのですが、効果は半分だけです。ある難病を抱える方が電話をかけて来られ「**今のカウンセラーは聞くだけで、何も具体的なことを言ってくれない。だから不安になる。**」とおっしゃっていました。人は、はっきりとした答えを聞きたいのです。

最後に「**パンの出来事を理解せず、心が鈍くなっていたからである。**」（52 節）とあります。パンの出来事とは、五千人の給食の奇跡の話です。これは人は計算で生きるのではなく、キリストによって生きるものだ、ということです。聖餐式は、過去の思い出を行っているのではありません。今、私たちが生きるために、神の子イエス・キリストの肉を食べ、血を飲んでいるのです。キリストによらなければ私たちは生きれないのです。「**わたしを食べる者は、わたしによって生きる**」（ヨハネ 6：57）。またエフェソ 1：7 に「**私たちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。**」とあります。どんな良いことをしても人の罪は赦されません。ただ一人、神の子イエス・キリストの血によらなければ、あなたは赦されないのです。

●先日、YWCA で蟻の話をしました。「働きアリは 100 匹の内、一生懸命働いているのは 20 匹だけで、60 匹は普通に働き、20 匹はさぼっています。一生懸命働いている 20 匹だけを別の場所に移すと、やはり 2 対 6 対 2 になるのです。これを働きアリの法則（2：6：2 の法則）といいます。この法則は人間社会にも適応できると言います。人生も同じです。20%上手く行けば、それで良いのです。それでも今日までやって来れたのです。必ず何とかなります。」すると施設長さんが「なんか、何とかなると思えてきた」と言いました。

人生は順調に行かなくてもよいのです。神様がそうしているからです。5 世紀のアウグスティヌスは「**悪い時代だからこそ、善く生きよう**」と言いましたが、帝国が滅びるという、今よりもっと大変な時代を彼らは生きたのです。でも、イエス様は「**安心しなさい。わたしだ。恐れることはない**」（50 節）と言われます。何かを残さなければならないのではないのです。建てて崩れても良いのです。何も残らなくてもいいのです。すべてを失っても、一つだけ残るものがあります。あなたを愛されるキリストの愛です。キリストがあなたにされた出来事です。これは永遠に残りますし、これがあなたを復活させます。だから安心して、恐れずに今を生きたいと思います。